

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

					No.	13-005	
PDCA	事務事業名	環境学習事業	部課等名	市民経済部 環境課	担当	片山	
					内線等	331	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節： 第2節 環境との共生 基本施策： 3. 環境学習・環境保全活動 単位施策： (1) 環境学習 個別施策： ①あらゆる世代への環境学習の推進					
	根拠法令等	—					
	対象・目的	だれもが環境に関する情報を入手でき、学習できる場や機会が整い、また市民・事業者・NPO等と行政が良好なパートナーシップを構築し、積極的に環境保全活動に取り組み、環境保全活動の推進を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	情報を発信するため、「環境イベント・講座情報誌」を作成する。 環境学習のできる場や機会を提供するため、市主催の行事を開催する。 環境保全活動に取り組む団体等を支援するため、「環境保全・活動団体登録制度」を構築する。また、意識醸成のため各種表彰制度に推薦する。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		「環境イベント・講座情報誌」の発行部数	265	254	110	部	
		環境学習イベント・講座の開催回数	28	17	12	回	
		「環境保全・活動団体登録制度」登録団体数	10	9	8	団体	
		事業費	753	1,026	138	千円	
		人件費	3,435	2,484	1,234	千円	
		総事業費	4,188	3,510	1,372	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	市民1人あたりにかかる環境学習コスト	36	30	12	円		
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		環境学習参加者満足度（アンケートで「満足」と回答）	実績値	—	—	93	%
			目標値	—	—	100	
		環境学習イベント参加人数	実績値	1,509	1,185	934	人
			目標値	1,100	1,500	1,500	
環境保全ポスターコンクール応募数		実績値	—	—	140	点	
		目標値	—	—	250		
C 課題の整理		観点別評価	必要性	有効性		効率性	
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
	②市民ニーズ		低い	⑤成果向上の余地	ない		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地	ある
	事業の評価・課題	C 今年度も、「参加者数の維持・向上」と「内容充実及び参加者満足度の向上」に重点を置き実施した。新型コロナウイルス感染症の感染不安と思われるが、出前講座の申込数（▲25%）及び自然体験・観察会の申込者数（▲35%）が減少した。しかしながら、アンケート調査（自然体験・観察会で実施）での満足度は93%であったことから、事業内容の充実度がうかがえる。また、市内小中学生を対象にしたポスターコンクールでは、短縮された夏休み中での作成にもかかわらず140点もの応募があり、関心の高さを感じられた。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 現在の学習メニューを創設後数年経過し、出前講座においては、実施を希望する学校等が固定されるようになってきた。より柔軟に、学校等での環境学習へ組み込んでいただけるよう「脱炭素社会」や「生物多様性」というテーマで、環境分析調査などとも関連させた事業への転換を図る。また、イベント的な事業となっている「環境学習」を、他部署や事業者、環境保護団体との連携による持続可能な「環境教育」として推進するための取組みとするための手法を検討する。					
	令和3年度の目標	成果指標	目標値			単位	
		環境学習参加者満足度（アンケートで「満足」と回答）	100			%	
		環境学習イベント参加人数	1,500			人	
		環境保全ポスターコンクール応募数	250			点	